2018 年度活動概要　　多文化共生と英語教育研究会

多文化共生と英語教育研究会は 2018 年度の活動テーマを「多文化多言語への受容性を育成する英語教育の可能性」とし、2016 年度から実施してきた調査研究のまとめと分析を行いました。この研究は英語学習者の１．多文化多言語社会への意識、２．英語の国際性・英語教育・英語力への認識、３．多様な英語への受容性（国際英語論的態度）に関する傾向と、それらの相関性の検証を目的としたものであり、結果として「多文化共生への肯定感と、異文化教育の必要性への意識」「英語使用経験と、英語力への自信」「欧米への憧れと、母語話者英語への憧れ」「外国人への差別意識傾向と、機械通訳・翻訳の普及による英語学習不要化の予測傾向」その他に相関性がみられることが判明しました。また、本研究を基盤に、個別大学の傾向を分析する発展的研究もなされました。

7 月には、The 11th International Conference of English as a Lingua Franca(Kings College、London)において Reassessment of English Writings of Japanese ELF Users Based on the DALP Model と題して国際英語論の立場から、日本人の発想と日本人の英語表現に関する研究発表を行っています。12 月の JAALinJACET の国際大会において研究会報告を実施したほか、2019 年 3 月には The 2nd International Conference of Bilingualism（University of Malta, Malta, EU）において Modality Expressions in Japanese English from the Viewpoint of English as a Lingua Franca と題する発表を行い、多文化多言語時代の言語能力を、固定的視点ではなく、流動的で文脈依存的な視点から評価することの重要性を日英語の bilingual-bicultural context での英語使用事例を中心に分析した発表を行いました。

2019 年度は JACET 国際大会において中部支部主催のシンポジウムが予定されており、多文化共生と英語教育研究会からも多文化多言語時代の英語教育に関する発表を予定しています。